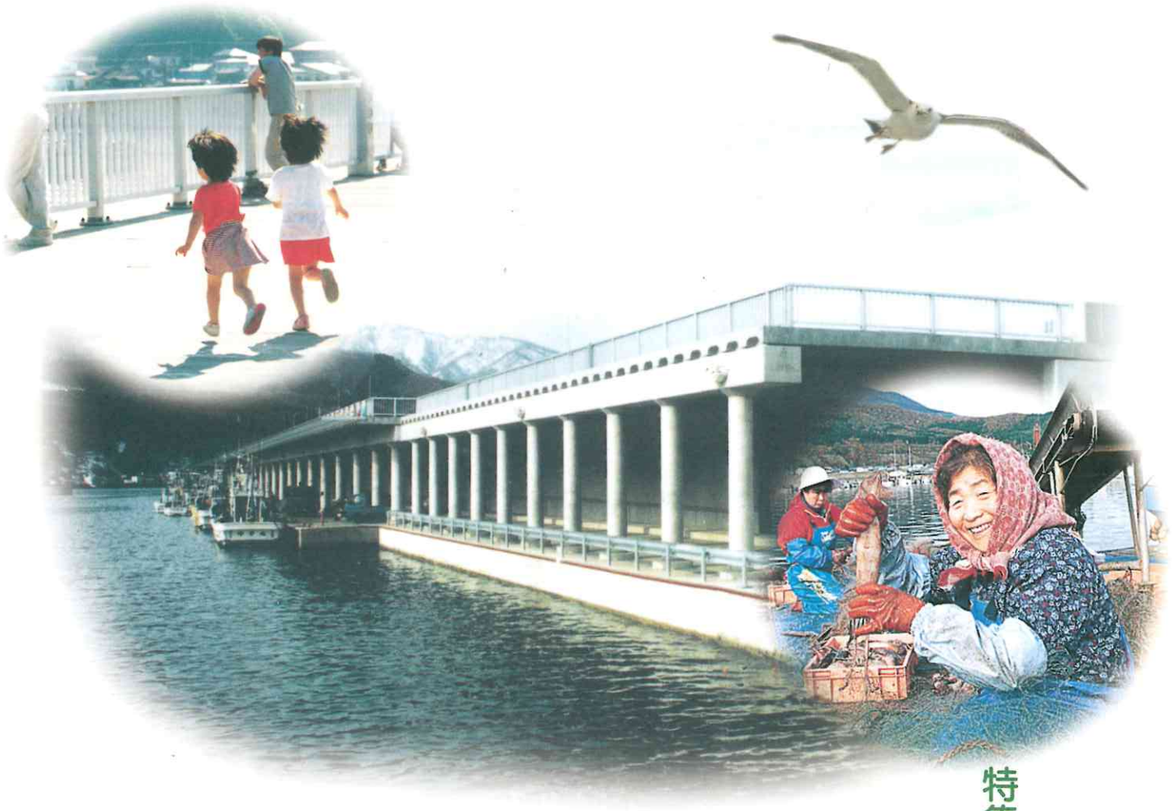
ほっかいどう

かいはつグラフ

北海道開発局広報誌
Vol,22
2000 季刊



特集●北海道の大地を楽しもう！

おもいっきりアウトドア！
北海道流のんびり休暇
地域の個性をつなぐ道

事業紹介／湿原を守る「はじめの一歩」
釧路湿原の河川環境保全

しごと最前線／道内初!!バリアフリー型浮桟橋

北国賦／夏の夢
～絵本作家 あべ弘士さん

開発事業のあゆみ／開発土木研究所

ピックアップ／油流出事故に備えて
ペルー共和国研修員と親善サッカー

ちょっとひといき…道の駅／新しい6つの仕間

北海道開発グラフ
通巻第二十二号　二〇〇〇年（平成十二年）九月
監修　北海道開発局広報室
発行　財団法人北海道開発協会

〒〇〇一-〇〇二　札幌市北区北11条西2丁目　セントラル札幌北ビル
☎〇一一（七〇九）五二二一　FAX 〇一一（七〇九）五二二五

開発の日々のひとコマ

昭和４３年に登場したすべり試験車

あれ？５輪駆動車？

マイクロバスの後部にとりつけられた５番目の車輪。この車は、冬道のすべり具合を測定するすべり試験車です。

開発土木研究所（詳しくは本誌１６ページ）では、昭和３０年代から除雪後や融雪剤散布後の路面のまさつ抵抗を調査し、冬でも安全快適に走行できる道路について研究を重ねています。

現在は、これまでの調査経験を生かした最新式のすべり試験車が活躍しています。

表紙「カモメドームと漁村の営み」

函館港湾建設事務所が南茅部町臼尻漁港に建設したドーム式の護岸です。冬が旬のスケトウダラの網外しなど、漁港で作業する漁師のみなさんを厳しい波や風から守ります。屋根は手すりの付いた安全な展望デッキになっていて、海や漁港に親しめる空間となっています。夜にはライトアップされ、港に美しく浮かび上がります。

あしたを創る　北の知恵
北海道開発局

北海道の大地を楽しもう!!

広い大地と恵まれた自然、そして新鮮でおいしい食べもの。
魅力いっぱいの北海道には、国内から、海外から、一年を通して多くの観光客が訪れています。
北海道開発局では、北海道観光や自然体験型活動を、
さまざまな面から支援しています。

おもいっきりアウトドア!

夕暮れの湖を望むキャンプ場で新鮮素材のバーベキュー。
カヌーに乗り込み緩やかな水の流れに身を任せる。
大空に舞い上がって北の大地を眼下に楽しむ。
住んでいる人は幸せ、住んでいない人も憧れるアウトドア・ワールド北海道！

北海道は スカイスポーツのメッカ!

北海道の広く澄んだ大空。見上げるのも楽しいけど、思い切って羽ばたいてみては？

グライダー、熱気球、パラグライダーなど様々な楽しみがあるスカイスポーツ。いま、道内には数多くの拠点があり、活動も盛んです。北海道開発庁では、「スカイスポーツネットワーク構想」を推進中。特に、毎年開催される祭典「北海道スカイスポーツフェア」はデモフライトや体験飛行などもある見逃せないイベントです。

たきかわスカイパーク

スカイスポーツフェア開催中のたきかわスカイパーク

滝川市の石狩川河川敷にある国内初の航空公園。800mの舗装滑走路、スカイミュージアム、研修施設などトップクラスの施設を備え、グライダーなどの体験フライトからパイロット養成まで、熟練したスタッフが対応してくれます。

問い合わせ
（社）滝川スカイスポーツ振興協会
TEL
0125-24-3255
ホームページ
http://www01.u-page.so-net.ne.jp/gb3/sata/

北海道スカイスポーツ協会

北海道でのスカイスポーツ振興を通して地域振興に貢献することを目的に、北海道開発庁などが主務官庁となって平成２年に設立された団体です。

「北海道スカイスポーツフェア」の開催などの普及活動や各種情報の発信、指導者養成、各地のフィールドのネットワーク化などに取り組んでいます。

問い合わせ 011-232-4347
ホームページ http://www.n43.ne.jp/~hospa/

「夢いっぱい北のまち」びふか

美深町は、旭川と稚内を結ぶ国道40号のほぼ真ん中にあります。国道沿いの「道の駅びふか」からは、人気スポット「びふかアイランド」にアクセスでき、ここで天塩川のカヌーが楽しめます。インストラクターの丁寧な指導で、初心者やお子さんでも気軽に楽しむことができます。

「びふかアイランド」には、温泉、物産館、チョウザメ館、パークゴルフ場などもりだくさんの施設があります。今年の6月にはオートキャンプ場がオープンし、さらに魅力が増しました。

カヌーポートからいざ天塩川へ

カヌーに乗り込みパドルをひとかき。すーっと河岸から離れると、水の流れが止まり、河畔の木々が流れ出します。普段見慣れた川辺も、流れにまかせて漂うと新たな発見の連続です。

北海道には、豊かな自然のなかを緩やかに流れる川や深い森に抱かれた湖など、カヌーをこぎ出すにはもってこいのスポットがたくさんあり、カヌークラブの交流や市町村の取り組みも盛んです。北海道開発局も、カヌーポートづくりやダム湖の環境整備などを通して、ウォータースポーツ・フィールドの整備を支援しています。

オートリゾートネットワーク構想

車社会に対応したアウトドア活動の一つとして、清潔で快適にキャンプが楽しめるオートキャンプ場の人気が急速に高まっています。

北海道開発庁では、広い北海道を誰でも気軽に周遊旅行ができるように、このオートキャンプ場のネットワーク化を進めています。平成5年には（社）北海道オートリゾートネットワーク協会が設立されました。協会では、快適なキャンプライフを提供するためネットワークへの加盟基準を設けています。また、ホームページなどで各キャンプ場の情報を提供しています。

（社）北海道オートリゾートネットワーク協会
TEL　011-716-7661
ホームページ　http://www.auto-net.or.jp/

この夏に新たにオープンした滝里オートキャンプ場。芦別市滝里湖畔にあり、北海道開発局でもダム建設事業の一環で基盤整備などの支援をしています。

ラベンダー園から望むかなやま湖畔

夏でも冬でも「かなやま湖」

北海道のほぼ真ん中、豊かな森林に囲まれる「太陽と森と湖のまち、南富良野町」。その中央に「かなやま湖」があります。湖畔には、設備の整ったキャンプ場やコテージがあり、夏はカヌーやウインド・サーフィン、冬はワカサギ釣りなど四季を通じて遊ぶことができ、年間40万人以上の人々が訪れます。平成11年５月には新たに「かなやま湖オートキャンプ場」がオープンしました。

かなやま湖は北海道開発局が管理するダム湖ですが、湖の環境整備にあたり、駐車場整備や緑化など、訪れる人々が快適にアウトドアライフを満喫できるよう配慮しています。

北海道流のんびり休暇

自然豊かな農山漁村でゆっくりと余暇を過ごす、グリーンツーリズム。
農家民宿に泊まって農作業体験、ただただのんびり乗馬や釣り。
豊かな自然と美しい農村景観をもつ北海道。
どんなところで、どんな過ごしかたができるのか、
農家民宿や乗馬体験施設などを訪ねてみました。

インカルシペ　萠和（モイワ）

大樹町の広い森の中にあるここインカルシペでは、米山さんも暮らす本棟とコテージで、あわせて20人程が宿泊できます。露天の五右衛門風呂やサウナは、自分で火をおこして使います。薪を割って汗を流したあとの風呂は格別です。シラカバの林の中にあるハンモックでのんびりするのは、心の底からくつろげる、贅沢な時間の使い方です。

問い合わせ　TEL　01558-6-3824

露天の五右衛門風呂

大樹シラカバ研究会代表
米山　有年さん

10年ほど前、自宅を建てるときに、自然の中で過ごす気持ちよさをお客さんにおすそ分けしようという気持ちになり、宿泊施設を併設しました。うちの特徴は、原則として食事はお出ししないこと。周りにある農家や酪農家などを紹介していますので、お好きな物を調達してきてください。ベーコンを作っている家、そば打ちを教えてくれるところや牛の世話をさせてくれるところなど、いろいろあります。自炊のための道具はこちらで準備していますので、みなさん採れたての野菜や肉などを買って来て料理しています。バーベキューをすることもできます。
このように、お客さんに自分のところに来ていただくということだけではなく、周辺の農家や酪農家の方々と協力して、地域と一体となったまちづくりをしていくことが大切だと思っています。

ヨークシャーファーム

緑豊かな新得町にある英国風のこのペンションでは、約200頭の羊が春から秋にかけて放牧されています。その毛を使った糸つむぎやフェルト作り、庭のハーブ園で採ったハーブでの草木染めなどが体験できます。裏庭にはベリー園があり、夏場は摘んで食べることもできます。
でも一番のおすすめは、なにもしないでのんびりすること、と竹田さん。
レストランだけの利用もでき、自家製ラム肉を使ったステーキが楽しめます。ラム肉はもちろん、手づくりのジャムや、羊毛を使った小物の販売もしています。

問い合わせ
TEL　01566-4-4948

ヨークシャーファーム
竹田　英一さん

新得町農村ホリデー研究会という組織では、うちのような農場民宿や、体験農場、地域のスポーツ施設などで集まって、ガイドマップを作っています。お客さんはこのマップを参考に、野菜の収穫ができる農園や、釣堀、乗馬施設などに出かけて行くというわけです。最近では、ラフティングをしてそのあと温泉に入る、というツアーが人気です。
このように、地域で協力しあって新得の魅力を高め、たくさんの人に新得を好きになってもらいたい、そう考えています。

北海道の大地を楽しもう!

にいかっぷホロシリ乗馬クラブ

平成４年、日高の新冠町にオープンした第３セクターの乗馬クラブ。太平洋を望む小高い丘にあり、初心者向けの林間コースから海岸コース、マウントトレイルまで、総延長50kmに及ぶ多彩なトレッキングコースは全国的に有名。熟練したインストラクターが丁寧に指導してくれます。
60万枚に及ぶレコードを最高級のスピーカーで聞けるレ・コード館、夜の海に瞬く漁り火を望む町営温泉レ・コードの湯とともに、新冠町の大きな魅力となっています。

問い合わせ　TEL　01464-7-3351

にいかっぷホロシリ
乗馬クラブ支配人
堀　政市さん

道内外からたくさんの方々が乗馬にこられます。森の中へ入るトレッキングでエゾ鹿やキタキツネに出会えることもしばしばです。馬に乗る前には、仕事か何かで疲れ顔のお客さんも少なくないのですが、森から馬と一緒に帰って来ると例外なくお顔が一変されます。興奮気味に「楽しかった！」と言っていただけると、こちらもうれしくなります。毎年来てくれる方も結構いますよ。最近は、障害者乗馬を普及するため、乗馬の際の介護講習も行っています。
この冬からは室内の馬場がオープンします。日高自動車道が延びてきて、より多くの方に気軽に訪れてもらえるようになればと思っています。

うらかわ優駿ビレッジ「AERU」

５冠馬シンザンをはじめ幾多の名馬を生んだ浦河町。ここにやすらぎとふれあいの空間「AERU」はあります。乗馬体験はもちろん、優美な外観のロッジ、地元の食材をふんだんに使った料理、温泉、パークゴルフ場など多彩な魅力にあふれています。人数が集まれば、そば打ちやパンづくり、陶芸などの体験を楽しめます。

問い合わせ　TEL　01462-8-2111

アエル支配人
高橋　清孝さん

「AERU」のメインメニューはもちろん乗馬。ここには広い芝生や遊具施設があり、監視員もおいていますので、小さなお子さんをお連れのご夫婦がよくいらっしゃいます。また、乗馬にとどまらない多彩な施設が自慢ですから、是非ゆっくり滞在していただきたいですね。
今後も、地元産の名馬と触れあえたり、季節の花々を楽しめる場所にしたいなど、夢はつきません。そのためにも、道央圏や十勝、釧路圏との交流がもっと盛んになればと期待しています。そして、日高の個性的な施設が連携して地域の魅力をアピールしていければと思います。

高規格幹線道路のネットワーク化が進めば、より広域的な交流・連携が可能となります。

のびゆく日高自動車道（苫東道路）

「天馬街道」国道236号（野塚峠）

地域の個性をつなぐ道

あの風景がみたい、海の幸を楽しみたい、行きたいところが盛りだくさんの北海道。
北海道を楽しむなら、１ヶ所だけでは足りないはず。
道内各地を全部高速道路でつないだら・・・
いつも安全で快適なドライブができるから、ゆとりをもってあっちもこっちも。
個性豊かなさまざまなまち。訪れるほど好きになれる北海道。

夜のクリオネプロムナード

流氷アートフェスティバル

紋別グルメまつり

オホーツクタワーとクリオネプロムナードをバックに進む「ガリンコ号Ⅱ」

流氷のまち　紋別

流氷砕氷船ガリンコ号はあまりにも有名。船も2代目となり釣り体験やホタテ漁見学など、1年中楽しめる船になりました。「クリオネ・プロムナード」の愛称で親しまれている、北海道開発局建設の紋別港第3防波堤も人気のスポット。美しいデザインの防波堤は釣りも楽しめる海の散策道。その先には流氷を海中から観察できる世界初の氷海タワー「オホーツクタワー」があります。

オホーツク観光と旭川・紋別自動車道

冬は神秘的な流氷が海を覆い、夏はさわやかな青空が広がる、自然の恵みにあふれたオホーツク。魅力的な観光スポットや個性的なイベントにあふれ、アジアからの観光客も含め、毎年大勢の人々が訪れます。

いま、北海道開発局では旭川から紋別に至る高規格幹線道路「旭川・紋別自動車道」の整備を進めています。この地域を通っている333号などの国道は、アップダウンやカーブが多く、特に冬は移動に時間がかかってしまいます。旭川・紋別自動車道が完成すると、旭川や道央圏などからオホーツク圏へ、もっと気軽に安全で快適なドライブができるようになります。同じ日数で立ち寄れる場所が多くなり、新しい広域観光ルートが生まれることでしょう。

整備が進む旭川・紋別自動車道
（上越白滝道路）

ハーブの館「フレグランスハウス」

「童話村」たきのうえ

芝ざくらで有名な滝上町は、豊かな森や動物たちなど手つかずの自然や花と香りにあふれる町。この自然とその恵みを大切にして生活する人々の姿は、まさに「童話」の世界。滝上町は、誰もがあこがれる「童話」の舞台となるような、いつの時代でも色あせないまちづくりをめざしています。

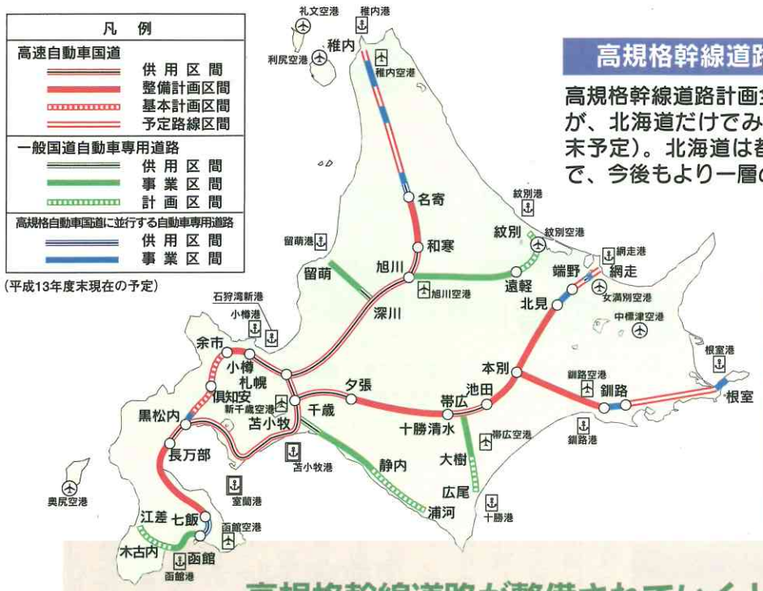
「花と漫画・ＳＫＩ」上湧別

100万本の色鮮やかなチューリップと風車。５月の上湧別はオランダさながら。シーズン中は10万人の来訪者でにぎわいます。
また、国際規模の漫画コンテストや100km駅伝クロスカントリー・スキーなどユニークなイベントも開催されます。平成８年には屯田兵の歴史を伝えるふるさと館「ＪＲＹ（ジェリー）」もオープンし、訪れる楽しみが増えました。

チューリップ公園と「JRY」

高規格幹線道路で行動範囲がひろがります

高規格幹線道路とは、簡単に言うと「高速道路」です。北海道では、総延長1,825ｋｍの高規格幹線道路が計画されています。高規格幹線道路のうち、「高速自動車国道」は道路公団が、「高速自動車国道に並行する自動車専用道路」と「一般国道の自動車専用道路」は北海道開発局が整備しています。



高規格幹線道路網の計画

高規格幹線道路計画全体のうち、全国での供用率は56%ですが、北海道だけでみると、29%にすぎません（平成12年度末予定）。北海道は都市が散在しているという特徴があるので、今後もより一層の整備を進める必要があります。

高規格幹線道路が整備されていくとどんないいことが？

○ 移動時間が大幅に短縮されるので・・・

- 旅行の際、同じ日数で今までより多くの場所を訪ねることができるようになります。
- 空港への時間が短縮され、道外へ出かける際もより便利になります。
- 産地から市場へ、より早く食材を運ぶことができるようになるので、より新鮮なものを楽しめます。
- 都市部の高度医療施設も、より身近に利用できるようになります。

たとえば・・・
札幌―釧路が、７時間→約３時間半
旭川―紋別が、３時間→約２時間

○高規格幹線道路は、交差点がなくカーブも緩やかで、走りやすいように設計されています。また、除雪体制もよいので、特に冬期間の移動も安全、快適にできるようになります。

・・・さまざまな場面で観光をサポートします・・・・・・・・・・・・・・・・・

新千歳エアポートインター

北の玄関口にふさわしいものとするため、道路、橋梁、照明灯などが景観を考慮してデザインされています。
また、新千歳空港では平成１４年春までに、駐車場とターミナルを結ぶ２本の連絡橋と乗降場が増設され、より便利になります。

室蘭港旅客船専用埠頭

室蘭市の中心市街地に近く、訪れる人にとって大変便利なこの埠頭は、昨年道内初の旅客船専用埠頭として整備がなされました。今後は、地元と観光客とのふれ合いができる空間づくりをめざし、市と協力して整備が進められていきます。

一般国道５号の４車線化

一般国道５号の札幌－小樽間が、平成１３年春までに、完全４車線になります。これによって渋滞が緩和され、より快適なドライブができるようになります。

快適ドライブには「道の駅」

線路に駅があるように、道路にも駅を。そんな発想から作られたのが「道の駅」です。トライブ途中の休憩ポイントとして、また地域の情報センターとして、すっかりおなじみになりました。現在７０ヶ所に増えた道の駅、ますますドライブには欠かせない存在になっています。

道の駅においてある、北海道地域総合情報システム「大地くん」。北海道開発局のホームページはもちろん、各地の観光情報や、天気予報もみられます。

しごと最・前・線

開発局と地域を結ぶ
主役はまさに“ひと”
地域の人々と一緒に考え、行動する
その最前線に立つ姿を紹介します

「道内初!! バリアフリー型浮桟橋」

稚内開発建設部　沓形港湾建設事業所
副長　**小田　義一**

バリアフリーとは・・・
バリアフリーとは「障壁のない」という意味です。高齢者や障害者、子どもなど、誰もが安心して暮らせる環境を作るのがバリアフリー化です。

利尻島は、全国的に有名な観光地で、毎年多くの観光客が訪れています。島の西側に位置することこ沓形港では、海底を観察することができる小型海底探勝船などが人気です。また、「飛鳥」などの日本最大級の大型客船も毎年訪れています。大型船は直接接岸することができないので、観光客は沖に停泊した船から、小型ボートに乗り換えて上陸しています。しかしこういった小型ボートや海底探勝船は、岸壁よりも1m近く低い位置に着くため、乗り降りの際大変不便で、危険でもありました。そこで新しく小型船のための桟橋の整備をすすめ、今年の6月29日完成しました。

今回完成した桟橋は、浮桟橋です。浮桟橋は、潮の干満に関係なく、水面からいつでも一定の高さを保っていられるのが特徴です。つまり船との高さが変わることがないので、乗り降りがとても安全にできるようになりました。また、桟橋の揺れを防ぐため、桟橋を囲むように波をおさえる波除堤を建設しました。そしてこの桟橋の一番の特徴は、バリアフリー型に設計したため、子どもやお年寄り、車椅子を利用される方など、だれもが安全に利用できるようになったという点です。桟橋へ渡る連絡橋、連絡通路は段差をなくし、ゆるやかなスロープをつけています。このようなバリアフリー型の設備を岸壁に作るのは、道内でも初の試みでした。

この桟橋周辺は、今後公園や物産館などが整備される予定で、既に完成しているフェリーターミナルとあわせ、利尻島の観光交流ゾーンとなることが期待されています。今後の港づくりのなかでも、このような人にやさしい設計をできるだけ多く取り入れていきたいと考えています。訪れるすべての方々にとって、安全で快適に利用できる港が理想ですから。

完成した浮桟橋です。浮かんでいるので、水位にかかわらず、いつでも船と同じ高さになります。桟橋へ渡る連絡橋は、段差をなくしています。後方に見えるのが、波の進入を防ぐ波除提です。

浮桟橋までは、階段のほかに、ゆるやかなスロープがつけられています。

ちょっとひといき… 道の駅

新たに6か所が登録されました

ドライブ中気軽に立ち寄ることのできる休憩場所としてはもちろん、また観光スポットとしても人気の道の駅に、この夏新たに6つの仲間が加わりました。これで北海道の道の駅は合計70か所となり、ドライブがさらに快適で楽しいものになります。
今回は、個性豊かなこの6つの新しい駅をご紹介します。

だて歴史の杜（もり）〔国道37号　伊達市〕

藍染めや刀鍛冶の工房施設が人気

伊達市民の憩いの場である総合公園「だて歴史の杜」内にある道の駅です。その中心施設の黎明観（れいめいかん）には、道内唯一の藍の生産地ならではの藍染め体験工房、刀剣の製作実演や刀小刀の作成ができる刀鍛冶工房、伊達の地場産品を展示販売する観光物産館などがあり、伊達の歴史文化を肌で感じられるレジャースポットとしても人気です。

☎0142(25)5567

あさひかわ〔国道237号　旭川市〕

いろいろなイベントも開催

地場産品販売コーナーでは上川管内の特産品を展示販売しており、地元でしか購入できない珍しい商品もあります。また、大展示場を備えていて、自動車ショーなど色々なイベントを開催。三浦綾子作「氷点」の舞台にもなった「外国樹種見本林」や「三浦綾子記念文学館」、博物館がある「大雪クリスタルホール」もすぐそこです。

☎0166(61)2283　※トイレが24時間使用できるようになるのは10月からの予定です。

自然体感しむかっぷ〔国道237号　占冠村〕

ショッピングモールで旅の休息

上川支庁管内最南端の玄関口に位置し、占冠村の特産・観光情報をはじめ、道内屈指の人気観光エリアである旭川・美瑛・富良野などの観光情報も提供。施設内にはショッピングモールがあり、食堂やレストラン、お土産店、写真館が軒を連ね、旅行の休息地として最適です。今秋、日本一大きな「自然体感寒暖計」が建設される予定です。

☎0167(56)2121

にしおこっぺ花夢（かむ）〔国道239号　西興部村〕

森と花に囲まれた体験工房

オホーツク海から25kmほど内陸の、周囲を山に囲まれた休息スポット。ヨーロッパ調のフラワーパークと18ホールのパークゴルフ場、ジャンボ滑り台や親水広場もあります。館内にはストリートオルガン職人・谷目基氏（たにめもとき）制作のからくりオルガンが奏でる優しい音色が広がり、ドライフラワーや草木染め、アイスクリーム作りも楽しめます。

☎01588(7)2333

オーロラタウン93りくべつ（仮称）〔国道242号　陸別町〕

泊まれて学べる道と鉄道の交流駅

道東のほぼ中央に位置し、ふるさと銀河線「陸別駅」を兼ねた「道と鉄道の駅」です。施設1階に陸別駅・陸別町開拓者の「関寛斎資料館」（はきかんさい）・「観光物産館」、2階に宿泊施設の「オーロラハウス」、屋外には約4000㎡の芝生の公園を備えています。日本最大級の反射望遠鏡を備えた「銀河の森天文台」へは、車で約10分の位置です。

☎01562(7)2012（観光物産館）
※トイレが24時間使用できるようになるのは平成13年1月からの予定です

はなやか（葉菜野花）小清水〔国道244号　小清水町〕

オホーツク観光の好拠点　○平成12年11月オープン予定

知床国立公園と阿寒国立公園を結ぶ要衝にあり、ＪＲ浜小清水駅と一体化した道の駅です。地場特産物の加工体験館やオホーツクの海の幸を存分に味わえるレストラン、駅の目の前には北海道で2カ所しかない「鳴き砂」のオホーツク海岸、周辺には原生花園・涛沸湖（とうふつこ）・オホーツク村などがあり、広大な北海道の自然を家族揃って満喫できます。

☎0152(63)4111（仮設）

道の駅の詳しい情報は、北海道開発局のホームページでもご覧になれます。http://www.hda.go.jp/hdb/

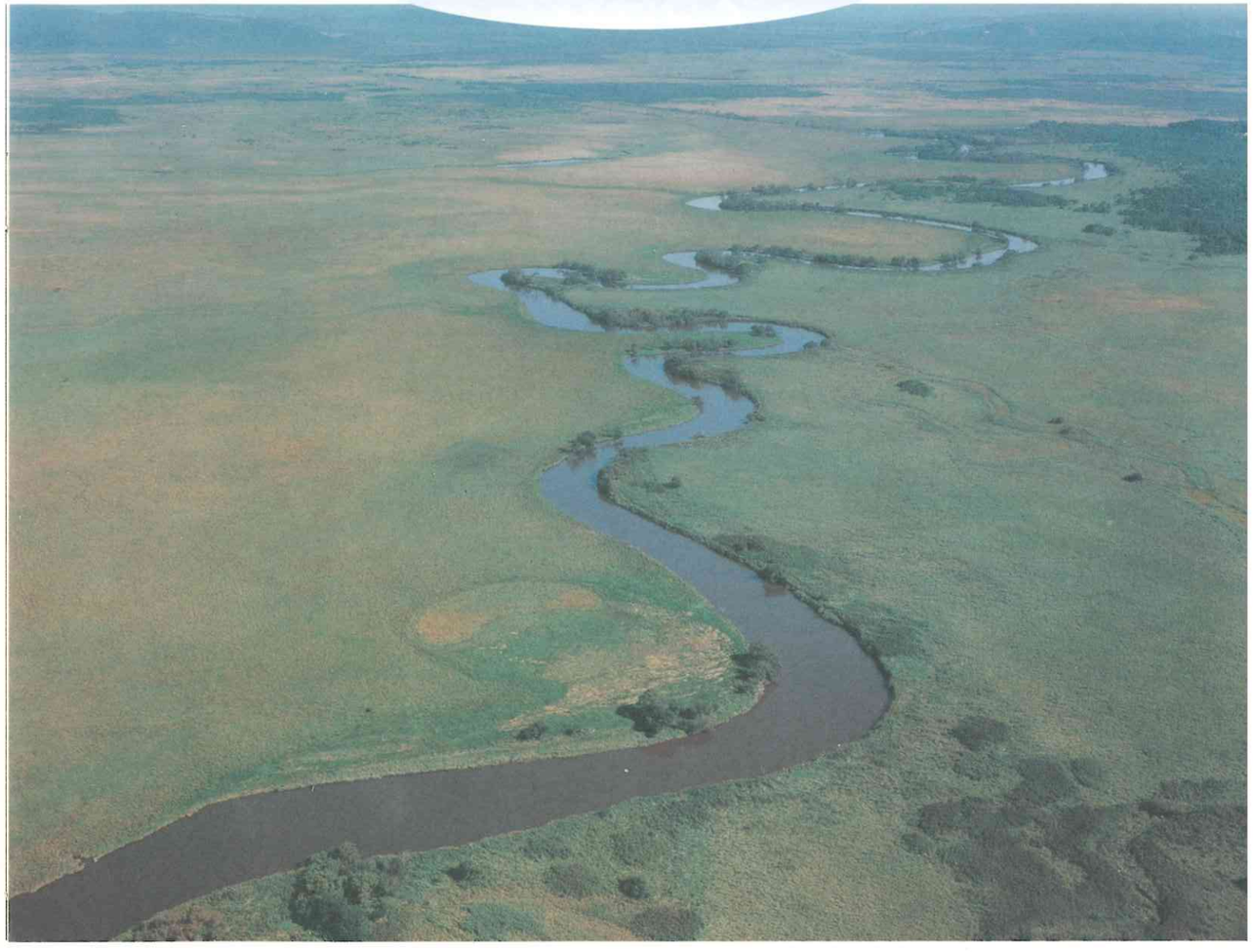
いくつの遊びかた、みつけられるかな？

洞窟に広がる虹色のネットでとんだりはねたりくぐったり・・・。国営滝野すずらん丘陵公園に今年７月にオープンした『こどもの谷』の中にある「虹の巣ドーム」です。色とりどりのネットが何層にも重なったこの空間は、子どもたちの冒険心を大いに刺激します。『こどもの谷』にはこの他に、「あり塚の塔」「ふわふわエッグ」「ありの巣トンネル」があり、どの施設も、今までにないユニークな遊び場として、子どもたちにはもちろん大人にも大好評です。

国営滝野すずらん丘陵公園　「こどもの谷」

湿原をまもる「はじめの一歩」

釧路湿原の河川環境保全



国内最大の湿原、釧路湿原は、悠久の昔からさまざまな生きものやみどりを育んできたいのちの宝庫です。国の特別天然記念物であるタンチョウや氷河期から生き続けるキタサンショウウオ、幻の魚イトウも生息しています。

また、湿原はまるでスポンジのように水を保ったり、流れ下る水をきれいにするなど、わたしたちの暮らしにとっても大切な働きをしています。

しかし、湿原周辺に人々の暮らしや産業などの営みが広がるにつれ、その面積は著しく減少し、北海道開発局の調査では、湿原の面積はこの50年間におよそ20%も減っています。

北海道開発局は、湿原に詳しい専門家や地域の方々とともに考え、この貴重な自然環境を保全していきます。湿原全域の河川区域指定や検討委員会の設置など、河川管理者として湿原保全に積極的に取り組むのは全国でも初めての試みです。

釧路湿原は、1980年にラムサール条約の登録湿地となり、1987年には国立公園に指定されました。その面積は18、290haで、東京ドーム約4000個分の広大なものです。

出典：国土地理院発行地勢図

釧路湿原を河川区域に指定し、湿原の河川環境を守ります。

釧路湿原が持つ保水機能（自然のダム）を維持して洪水防止に役立てるとともに、その貴重な自然環境を保全するため、釧路湿原のほぼ全域を河川区域に指定しました。これにより、湿原内での工事や建物の建設、野生生物の住みかへの立ち入りなど、湿原の環境に悪影響を及ぼすような行為を制限できるようになりました。

◀湿原のほぼ全域をカバーする河川区域。湿原と密接な関係のある湖や沼も含んでいます。

釧路湿原の河川環境保全に関する検討委員会

平成11年9月、湿原や野生生物の専門家を中心とする「釧路湿原の河川環境保全に関する検討委員会」を設置しました。この委員会では、広く一般の方々のご意見も伺いながら、釧路湿原の保全や管理のしかたについて検討しており、来年3月までに最終的な提言をまとめる予定です。そのため、委員会では、湿原の乾燥化の原因である土砂の流入を抑えるため、河畔林を活用した土砂対策や沈砂池の設置などについて調査・研究を進めていきます。また、乾燥化が進んでいる湿原の環境をとりもどすため、湿原内で水を溜める試験にも取り組んでいます。

昨年9月から4回の委員会が開かれています。▶

川レンジャー参上！

湿原周辺にお住まいの方々を対象に、釧路湿原の河川環境を良くするためボランティア「釧路湿原川レンジャー」を一般公募し、51名が登録されました。川レンジャーの方々は、河岸の状態や動植物の様子など、釧路湿原や釧路川の環境の変化を観察・報告します。

◀専門家とともに現地観察会や学習会も行っています。

北国賦

夏の夢

絵本作家
あべ 弘士

一冊の絵本が、長いことかかってようやく完成した。身体中に快い虚脱感がある。ラジオからの音楽は、きのうまでのものとまるで違う音だ。しばらくはもう何もしたくない。ここ約ひと月、私の目も耳も皮膚も、一つの作品に牛耳られていて、ゆっくりと見たり、聞いたり、さわったりしている余裕はなかった。心もそうだった。でもそんな世界に自分が入っていくのも悪くない。むしろ自分からそう仕向けているのかもしれない。そしてついさっき、その世界が消えた。

カンタンが鳴いている。鳴く虫の声が好きだ。キリギリスの声を聞くと決まって思い出す。当時の天気も臭いも。墓まいりの夏の日だ。少年の私は大人たちのざわめきをよそに、キリギリスを追っている。そう簡単には捕らえられぬのを知ってはいたが、あのデカサとキカナさにあこがれていた。お盆がすぎるとコオロギが鳴く。線路ぞいの石の間にはいくらでもコオロギがいた。クサキリもササキリも鳴いている。秋が深まり、虫たちもいよいよ佳境に入る。

Profile
あべ・ひろし　HIROSHI ABE

1948年、北海道に生まれる。旭川市旭山動物園飼育係として25年、アジアゾウからアヒルまで、つきあった動物は数えきれない。かまれたり、けられたりした傷も数えきれない。在職中から絵本画家として活躍し、退職後の現在はフリーの画家として絵本制作に専念。絵本の仕事に「旭山動物園日誌」（出版工房ミル）、「動物園ガイド」（福音館書店）、「てんてんむし」（童心社）他多数。95年に「あらしのよるに」（木村裕一作・講談社）で講談社出版文化賞絵本賞、サンケイ児童出版文化賞、99年に「ゴリラにっき」（小学館）で小学館児童出版文化賞。好きな動物はカワウソ、好きな遊びは渓流釣り。旭川市在住。

この夏あべ氏は、詩人の「ねじめ正一」さんが少年時代に飼っていた犬の話につけるさし絵の仕事に取り組んでいたそうです。その本「ピーコポンチャン」はすずき出版より来年1月発行予定。

カンタンがこんなにも可憐な虫だと知ったのは30才も過ぎた頃か。鳴き声もさることながら、その透きとおるような翅（はね）やはかなげな姿が"私の虫ベスト1"になった理由（わけ）だろう。もひとつある。中国の故事「邯鄲（かんたん）の枕」の話も昼寝のまどろみにはうってつけだ。そんなわけで、今、アトリエの外で、ルルルル……と鳴くカンタンの声に私は秋を楽しんでいる。

暑かった夏が終わり、急に寒くなった。暑けりゃ暑いで、文句ばかりたれていた日々が、今はなつかしい。今朝、薪ストーブに火をつけた。久し振りの木の燃える香りだ。大さわぎの夏が去り、ゆっくりの静かな秋が来た。

あっ、そうだ犬小屋、直さなくちゃ。

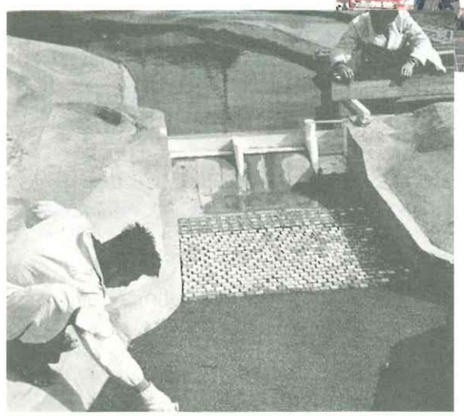
北海道開発局　開発土木研究所

～北国の土木技術研究を担って60年～

北海道開発局開発土木研究所は、日本で唯一の寒地土木技術に関する国立研究機関です。昭和１２年の発足以来、積雪寒冷地である北海道に固有な気象や地質などの地域特性を踏まえた土木技術の研究開発に取り組んでおり、河川堤防、港湾、漁港、道路、農業用水路といった社会基盤の整備に大きく貢献しています。

昭和30年代の正面玄関と構内

現在の研究所全景。様々な施設をもつ４棟の実験棟と管理棟があります。奥に見えるのは豊平川です。構内には精進川が流れ、川沿いに咲く桜は毎年市民に公開されています。



構内河川屋外実験場（昭和30年代）

開発土木研究所は、昭和12年、現在の建物のある札幌市平岸に設置された北海道庁土木部試験室が母体となっています。昭和22年に土木試験所として独立し、同26年には国の機関である北海道開発局の発足にともない、その付属機関となりました。その後、昭和63年に研究組織の充実を図り、名称も開発土木研究所と改め、現在に至っています。

研究所は、発足以来一貫して、北海道の積雪寒冷という気象や道内に広く分布する泥炭等の軟弱地盤に対処しながら、いかに未来の財産となる質の高い社会基盤を造っていくかというテーマで調査・試験・研究に従事してきました。研究成果は、北海道開発局が行う河川、港湾、水産、道路、農業などの各事業を進めるにあたって、技術上の様々な問題を解決するために重要な役割を果たしてきました。また、積雪寒冷地において土木事業を実施するための技術の発展にも大きく貢献してきています。

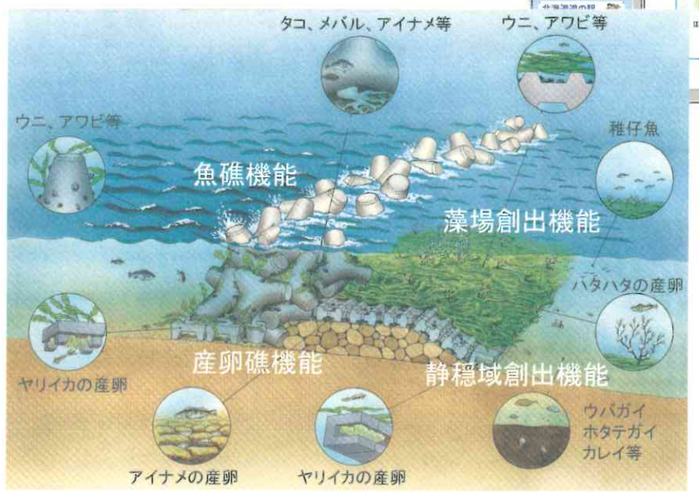
さらに、時代の変化とともに生まれる社会の新たなニーズを踏まえ、研究領域の拡大や産・学・官の共同研究を積極的に推進しています。また、環境保全などの今日的課題に対し各研究室が力を合わせてその解決に取り組んでいます。

近年、寒地土木技術に関する研究開発は国際的な広がりを見せています。当研究所においても、各国機関との共同研究や発展途上国への協力など、国際研究交流を積極的に進めています。

ニーズに応える最新の研究

岩盤の動きの計測実験。データは１分おきに研究所に送信されています。（国道336号 様似町幌満地区）

インターネットで北海道内の道路情報を総合案内する実験サイト「北の道ナビ」。北海道開発局、北海道、札幌市、道路公団が共同で実施しています。開発土木研究所では、サイトの作成や運用を行っています。



魚介類やコンブの生育場所ともなる防波堤づくりなどの研究を進めています。

60年以上の研究の蓄積を生かして現在行っている最新の研究としては、次のようなものがあります。

○自然にやさしい河川工事の方法に関する研究
○魚介類の生育や港内の水質環境保全に配慮した防波堤などの開発
○道路に面する岩盤の動きを計測する防災技術の確立
○インターネットを活用した道路情報システムの開発
○スタッドレス化に対応した冬期路面管理手法の開発・改良
○酪農牛の糞尿を肥料やエネルギー資源として有効活用し環境を保全するための技術開発

ところで、現在進められている中央省庁改革では、いくつかの機関を国の組織から切り離し、新たなルールのもとでより効果的な仕事を行うこととしています。この方針により誕生する機関を独立行政法人といいますが、開発土木研究所もその1つで、来年4月、北海道開発局の機関として担ってきた役割を引き継ぎ、新たなスタートをきることとなっています。

開発土木研究所は、これまで蓄積した寒地土木技術のノウハウを今後さらに発展させ、21世紀の国民生活がより豊かで安全なものとなるような研究・技術開発を進め、わが国の国立試験研究機関として唯一の「寒地土木技術センター」としての機能を一層高めていきます。

住所　札幌市豊平区平岸1条3丁目1－43
電話　011－841－1111
ホームページ　http://www.ceri.go.jp

2001年１月から北海道開発局の役割が広がります。

２００１年１月の国土交通省の発足にともない、北海道開発庁は同省の「北海道局」として新たなスタートをきることになります。また、北海道開発局は国土交通省の地方支分部局となりその役割も広がります。これは、現在建設省等の本省で行っている事務の一部が北海道開発局に委任されることによるものです。

北海道開発局では、新たな事務を円滑に実施するため、事業振興部等の組織を新設します。

なお、新たな事務の概要については、今後、北海道開発局のホームページなどでお知らせしていきます。

新たに広がる北海道開発局の業務

【現在の主な業務】

○開発計画の調査
○国の直轄事業（道路、河川、ダム、農業、漁港、港湾、空港、営繕、国営公園等）の実施
○国の直轄公共施設（道路、河川、ダム、国営公園等）の管理（許認可を含む）

＋

【新たに委任される事務】

◎補助事業（宅地、都市、河川、道路、住宅、港湾、農業等）に関する手続
◎建設業、不動産業等の業行政（業の許可等を含む）
◎土地収用に関する事業の認定
◎都市計画に関する認可等の実施
◎宅地供給に関する許認可等の実施
◎住宅・建築に関する許認可等の実施

えぞたぬき

暑かった夏も忘れて、冬のコートのことを考えはじめる今日このごろ、私が広報室に配属されてもうすぐ６ヶ月がたとうとしています。広報誌作りが初めてどころか、働くことが初めての私にとっては、なんだかあっという間の約６ヶ月でした。いろいろと「たいへんなこと」？もありましたが（主に業務外で・・・）、ともかくあと数週間無事に勤め上げれば、晴れて正式な職員になれるわけです。この２２号が出るころには、２３号の計画を立てているのか、はたまた広報誌でなく求人誌を手にして食を、もとい職を探しているのかは、神（上司）のみぞ知るところです。（Y）

ひろば

特集「有珠山噴火」は写真もたくさん使い、わかりやすく説明しており、読みやすかった。大変でしょうが、頑張ってください。

（青森県　N・O）

美しい紙面だな、というのが第一印象です。できれば、数値的な資料（特に予算）について、明記していただきたいと思います。

（小樽市　Y・T）

日頃の生活の中で気づかず見過ごしていたことを、本誌によって再発見、再確認ができて有意義でした。

（札幌市　H・M）

「かいはつグラフ」がインターネットでもご覧になれます。

北海道開発局のホームページでは、「ほっかいどうかいはつグラフ」の誌面の一部を掲載しております。掲載している記事は、特集、しごと最前線、事業紹介（17号以降）です。

バックナンバーも見ることができますので、ぜひアクセスしてみてください。

アドレス　http://www.hda.go.jp/hdb/

ピックアップ
Pickup

ペルー共和国研修員と親善サッカー

～開発局による開発途上国研修員の受け入れ～

北海道開発局では、開発行政に関する国際協力活動として、国際協力事業団を通じて世界の開発途上国の研修員を受け入れており、平成12年度は、５コース（道内研修期間延べ181日）を予定しています。

６月26日から７月25日にかけては、南米のペルー共和国からの研修員15名を迎え「ペルー地域開発計画指導者セミナー」が実施されました。研修生は、大学教授や開発局の職員などによる講義と現地視察を通じて、北海道における総合的な開発手法などについて理解を深めました。

また、ここ数年は、開発局サッカー部と研修員チームとの「国際試合」が行われており、今回も休日を利用し、ペルー研修員との親善試合を行いました。結果はサッカー大陸南米のペルーチームが４対２で勝利しました。世界の共通言語ともいえるサッカーによる言葉の壁を越えた国際交流となりました。

油流出事故に備えて

～紋別港沖で合同公開訓練～

７月28日、紋別港沖の海上で、北海道開発局災害対策用ヘリコプター「ほっかい」と運輸省第五港湾建設局所属の油回収船「清龍丸」の連携による油回収訓練が行われました。

訓練は、「ほっかい」から映像と音声による油流出状況の報告を受けた地上本部が、「清龍丸」へ油回収作業を指示するという流れで行われました。

オホーツク海域で油流出事故が発生した場合の、沿岸域の生態系に与える悪影響と油回収の重要性を地域住民に認識してもらうため、この訓練は一般公開されました。また、「土のう造成機」など開発局所有の災害対策用機械の展示もあり、住民の方々は、普段見られない船舶・機械を目にして、災害・事故対策への意識を新たにしていました。

・・・開発カレンダー・・・

（　）内は開催地

10月6日
平成12年度環境・景観に配慮した事例研究発表会（札幌第一合同庁舎２階講堂）

10月31日
釧路合同庁舎竣工式及び庁舎見学会
（釧路シビックコア地区オープン）

11月6日
第20回（平成12年度）北海道開発局優良工事施工業者表彰式
（札幌第一合同庁舎２階講堂）

11月中旬
ザ・シンポジウムみなと（札幌市）

11月30日
釧路空港2500m滑走路供用開始

平成12年中に開通予定の道路
一般国道229号積丹防災
（余市町潮見町～豊浜町）
一般国道39号美幌バイパス
（美幌町字高野～字端治）
渡島半島横断道路（一般国道230号）花石道路
（今金町字花石～字住吉）

「北海道開発グラフ」はエコマーク認定の再生紙を使用しています。